

横浜キャンパスでは、10時から環境学部、13時30分からメディア情報学部の説明会が行われました。両学部とも、全体説明会をそれぞれ実施した後、学科別に懇談会を行い、その後、希望者に個別面談を実施しました。

環境学部の全体説明会では、室田昌子環境学部長より、「環境学部生は683名で、学生一人ひとりに目が行き届く最適な人数。キャンパスが開設された1997年当時からSDGs（持続可能な開発目標）を想定していた」と、学部の特色、先見性の高さを紹介しました。

続いて、史中超環境学部教務委員長が単位の取得や大学院進学について説明し、「単位の取得状況については、成績通知書を発送しているので、（保護者が）しっかり確認してほしい。学内からの大学院進学には入学金免除の制度がある。進学は研究職や専門性の高い職業に就くための近道」などと話しました。また、毎回保護者からの質問が多い就職支援に関しては、横浜キャンパスキャリア委員らが「来年以降の就職活動にコロナの影響が出るのは必至。キャリア支援センターではいつでもサポートする体制を整えているので気軽に声をかけてほしい」と強調しました。



施設の入り口では、検温、アルコール消毒などの感染症対策が施されています。



全体説明会後の懇談会は、学年・クラスごとに分かれて行われました。

続いて各学科学年・クラス別の懇談会が行われました。環境創生学科A組の懇談会では、飯島健太郎教授が第2クォーターまでのメディア授業を振り返って、「オンラインに不慣れな面もあるが、学生はみなより良い未来を切り開こうという意欲を持っている」と話しました。

B組の丹羽由佳理准教授は、自身のあいさつの後、保護者にも一人ひとり自己紹介してもらい、その後、「大学生になっても（保護者が）話を聞いてあげるの大切」「研究室選びは就職に直結するので慎重に」などと助言しました。

C組の加用現空准教授は、保護者に対してメディア授業時の家庭内の様子を訊ねるなど、相互理解を深めていました。コロナ禍にあるからこそ、大学と保護者との交流、連携がとても大切であることを感じさせる連絡会となりました。

横浜キャンパスは私たちが取材しました！



環境創生学科1年
寺尾 聡子さん

個人の方への取材は初めてでした。貴重な体験をさせていただいた保護者のみなさま、ありがとうございました！

社会メディア学科2年
高比良 星砂美さん

昨年度も取材させていただいたので、今回少しは落ち着いて話を聞けたのでは。私自身が成長しながら、新人部員にもいろいろ教えたいと思います。

環境創生学科1年
平田 結佳さん

緊張のせいで少し早口になっていたかもしれませんが、今回は、できるだけ聞き取りやすく話す工夫をしたいと思います！

参加された保護者の方々の感想



環境創生学科1年
柳田 恵杜さんのお母さん

親が学校に行く機会はありませんので、参加しました。（コロナなど）今後は気になりますが、子どもには主体的にいろいろ率直に話せるようになってほしいですね。



環境経営システム学科1年
北 大樹君のお母さん

環境学部というだけあって緑が多い印象を受けます。メディア授業のため、友達作りがにくい状況が心配。全体説明会で就職の情報を得られたのがためになりました。



社会メディア学科3年
中村 建太君のお母さん

子どもが3年生なので、研究室や就職のことを知りたくて来ました。以前訪れたときは横浜祭ですごく賑やかでしたが、今日は学生がほとんどいないので少し寂しいですね。

初めて来ました。きれいなキャンパスですね。構内には入れることを子どもは喜んでいました。

情報システム学科1年

担任の先生との懇談会で、大学のことや、学修、研究室、就職のことなどいろいろ理解できました。

環境創生学科1年

企業の面接なども多くがオンラインだそうです。今後の就職の動向にも関心があります。

社会メディア学科3年

学科懇談会で他の親御さんや担任の先生のお話を聞けたのがためになりました。

環境創生学科1年

取材にご協力いただきありがとうございました。

等々力キャンパスで13時から始まった人間科学部の全体説明会では、井戸ゆかり学部長が「大学は友人を作る場でもあるので、コロナ禍で入構できないことは、とくに1年生にとってつらい経験です。後期、オンラインと対面型のハイブリッド型授業になって、1年生は約8割が対面型を選択

しました」と話した後、保護者の支援と協力に感謝の言葉を述べました。また、実習委員長の園田巖准教授は、「人間科学部は、保育園や幼稚園などでの実習が不可欠ですが、コロナ禍においても確実に資格が取得できるよう実習の予定を組み替えた。実習期間には繁華街に行ってはならない